

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
213	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Predictors of change in estimated GFR: a population-based 7-year follow-up from the Tromso study. 腎糸球体濾過量推定値の変化の危険因子：Tromso 研究より一般集団の7年間の追跡	
執筆者	
Kronborg J, Solbu M, Njolstad I, Toft I, Eriksen BO, Jenssen T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nephrol Dial Transplant. 2008 Sep;23(9):2818-26. Epub 2008 Apr 9.	
キーワード	
慢性腎臓病・循環器疾患・危険因子・血圧・フィブリノーゲン・飲酒・運動	
要 旨	
<p><b>背景：</b> 慢性腎臓病は循環器疾患死亡と関連しており、腎機能の軽微な障害も循環器疾患危険因子となりうる。いくつかの研究が末期の腎臓病の危険因子を報告しているが、一般集団における腎機能障害の予測因子についてはほとんど調べられていない。</p> <p><b>方法：</b> Tromso 研究（ノルウェー北部）で 1994～1995 年に腎疾患を有しない 2249 名の男性と 2192 名の女性の初回調査を行い、7 年間追跡した。腎糸球体濾過量推定値(eGFR)は過去の確立した研究による推定式を用いた。eGFR の変化を予測する要因を明らかにするために、性別ごとに多変量線形解析分析を行った。</p> <p><b>結果：</b> eGFR の変化量は、収縮期血圧 (10mmHg 上昇あたりの <math>\beta = -0.14</math> (男性) / <math>-0.07</math> (女性)) およびフィブリノーゲン (1SD 上昇あたりの <math>\beta = -0.12</math> (男性) / <math>-0.11</math> (女性)) と有意に関連していた。男性の飲酒量が多い群および女性の運動量が多い群では eGFR が上昇していた。男性のみにおいてアルブミン/クレアチニン比が高いほど eGFR が低下していた。</p> <p><b>結論：</b> eGFR の変化に対する危険因子には性別特異的なものもあったが、収縮期血圧値と血中フィブリノーゲン濃度が高い状態では男女とも eGFR の低下がより大きかった。</p>	